

# 結果の概要

この報告書に掲載している数値は、四捨五入のため、  
内訳合計が総数に合わないことがある。

## 1. 糖尿病有病率の推定

今回の調査では、対象者の血液を採取しヘモグロビンA1cを測定した。この結果とアンケート結果を併せて、以下のように、糖尿病が疑われる人の総数とその割合を調べた。

- ・「糖尿病が強く疑われる人」  
ヘモグロビンA1c 6.1%以上、または、アンケート調査で、現在糖尿病の治療を受けていると答えた人
- ・「糖尿病の可能性を否定できない人」  
ヘモグロビンA1cが5.6%以上6.1%未満で現在糖尿病の治療を受けていない人
- ・「今回の調査で正常範囲の人」  
上記以外の人

## 1-1. 今回の調査において、糖尿病が疑われる人の総数とその割合

対象となった6,059人のうちで、「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合については、図1、図2のとおり。男性では、60歳代で17.5%が「糖尿病が強く疑われる人」で、女性では、70歳以上の15.5%が「糖尿病が強く疑われる人」であった。

図1. 今回の調査における糖尿病の総数とその割合

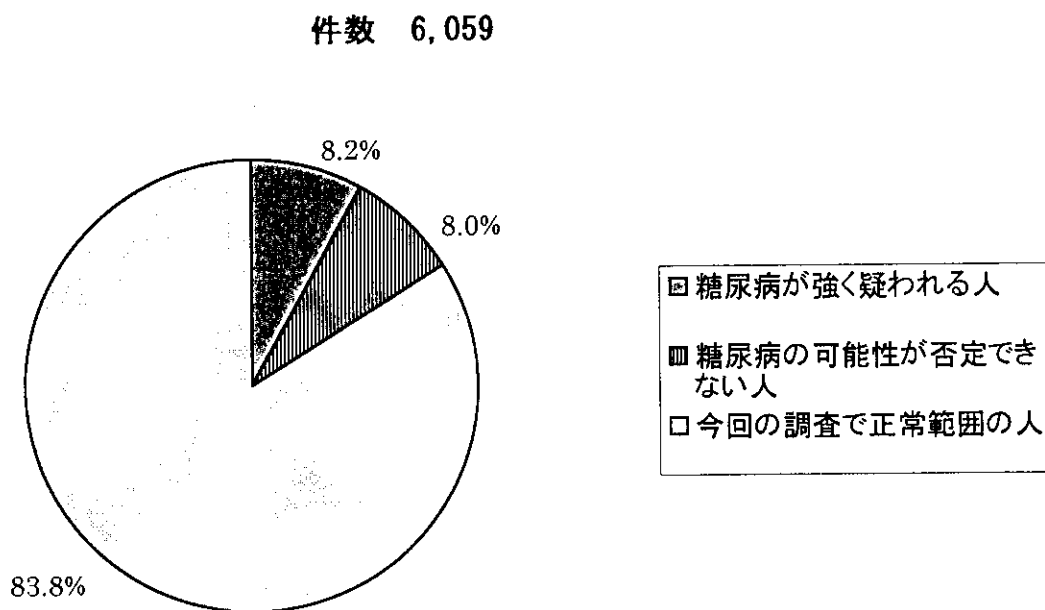
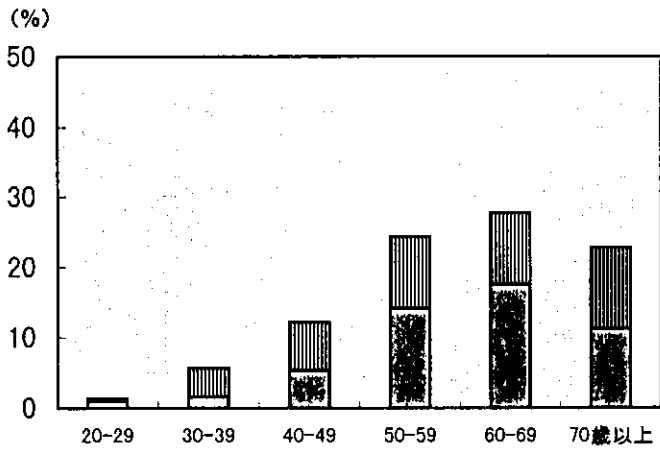


図2. 糖尿病の割合（性別、年齢階級別）

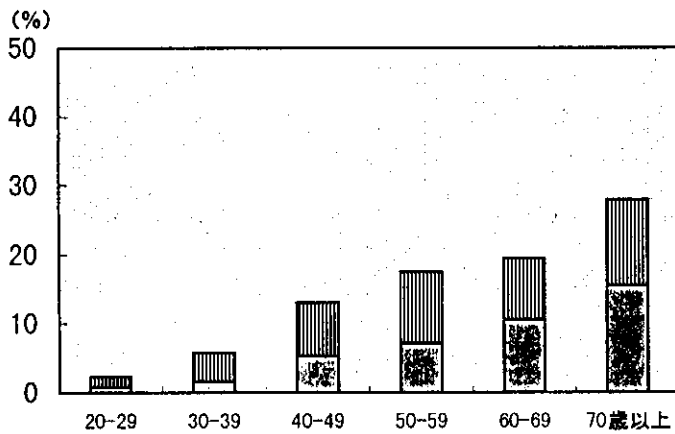
男性



年齢	糖尿病が強く疑われる人	糖尿病の可能性を否定できない
20-29	0.9%	0.4%
30-39	1.6%	4.1%
40-49	5.4%	6.8%
50-59	14.2%	10.1%
60-69	17.5%	10.3%
70-	11.3%	11.5%

▨ 糖尿病の可能性を否定できない人  
 □ 糖尿病が強く疑われる人

女性



年齢	糖尿病が強く疑われる人	糖尿病の可能性を否定できない
20-29	0.9%	1.4%
30-39	1.6%	4.2%
40-49	5.3%	7.7%
50-59	7.1%	10.4%
60-69	10.6%	8.8%
70-	15.5%	12.4%

▨ 糖尿病の可能性を否定できない人  
 □ 糖尿病が強く疑われる人

## 1-2. 日本における糖尿病有病者の推計

今回の結果に平成8年10月1日の我が国の推計人口を乗じて全国の糖尿病有病者の状況を推計したところ、「糖尿病が強く疑われる人」は約690万人で、「糖尿病の可能性を否定できない人」を合わせると約1370万人となった。(表1)

表1. 糖尿病が強く疑われる人および糖尿病の可能性を否定できない人の推計

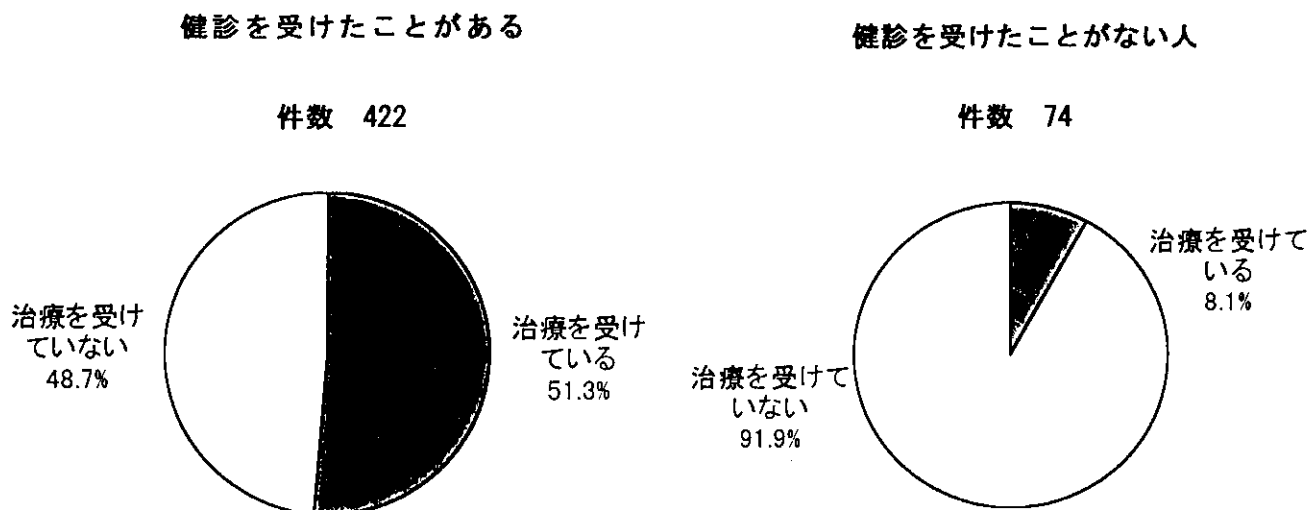
糖尿病が強く疑われる人	約690万人 (男性360万人、女性330万人)
上記に糖尿病の可能性を否定できない人を含めた場合	約1370万人 (男性670万人、女性700万人)
(参考) 糖尿病総患者数 (平成8年患者調査)	約218万人 (男性113.3万人、女性104.2万人)

## 2. 糖尿病有病者の背景

### 2-1. 「糖尿病が強く疑われる人」の糖尿病検査受診状況と治療状況

「糖尿病が強く疑われる人」を、アンケート調査での糖尿病検査受診の有無で分けて、治療の状況をみたところ（図3）、健診を受けたことがある人の半数以上は治療を受けているが、健診を受けたことがない人では、治療を受けている人の割合は、8.1%にとどまっている。

図3. 糖尿病が強く疑われる人の健診の有無と治療の状況



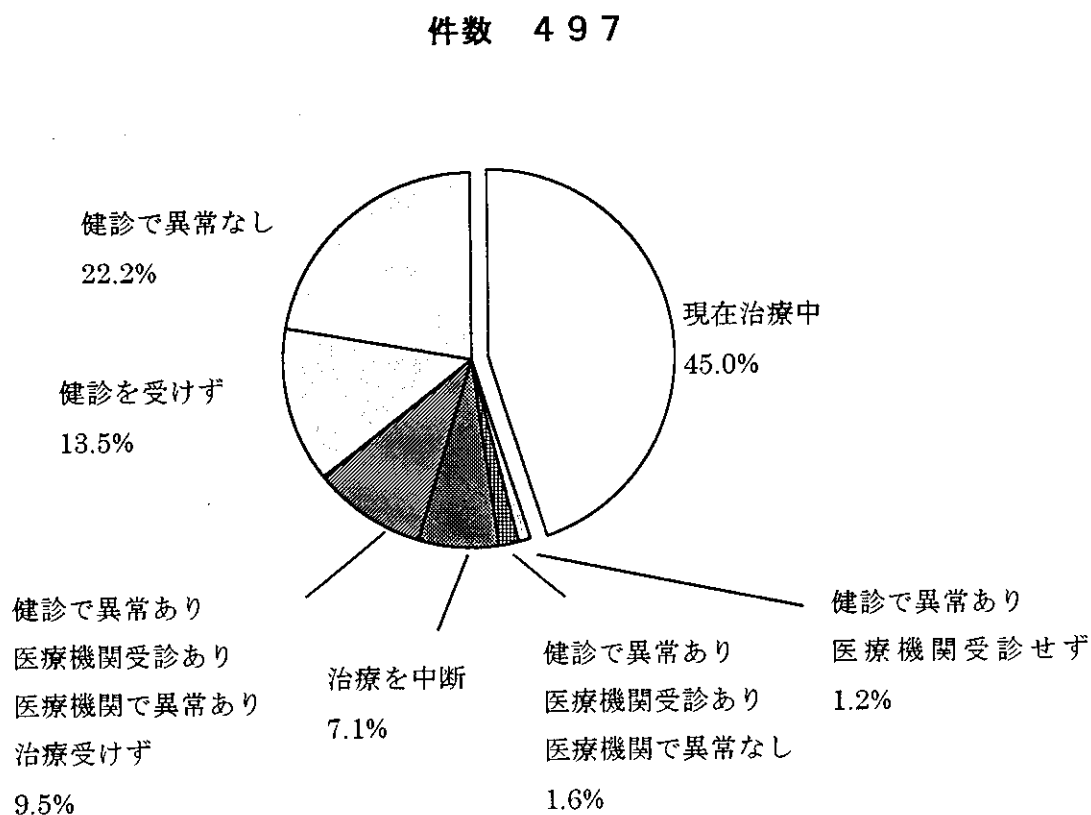
## 2—2. 「糖尿病が強く疑われる人」の健診および治療の動向

今回の調査において「糖尿病が強く疑われる人」のうち、アンケート調査で現在糖尿病の治療を受けていると答えた人は、45.0%であった。

残りの55.0%は、治療を受けていない人であり、その状況は図4とおり。

22.2%の人が、「健診で異常なし」を理由に治療を受けていない。また、健診で異常が指摘されても、治療に結びついていない人は9.5%みられる。

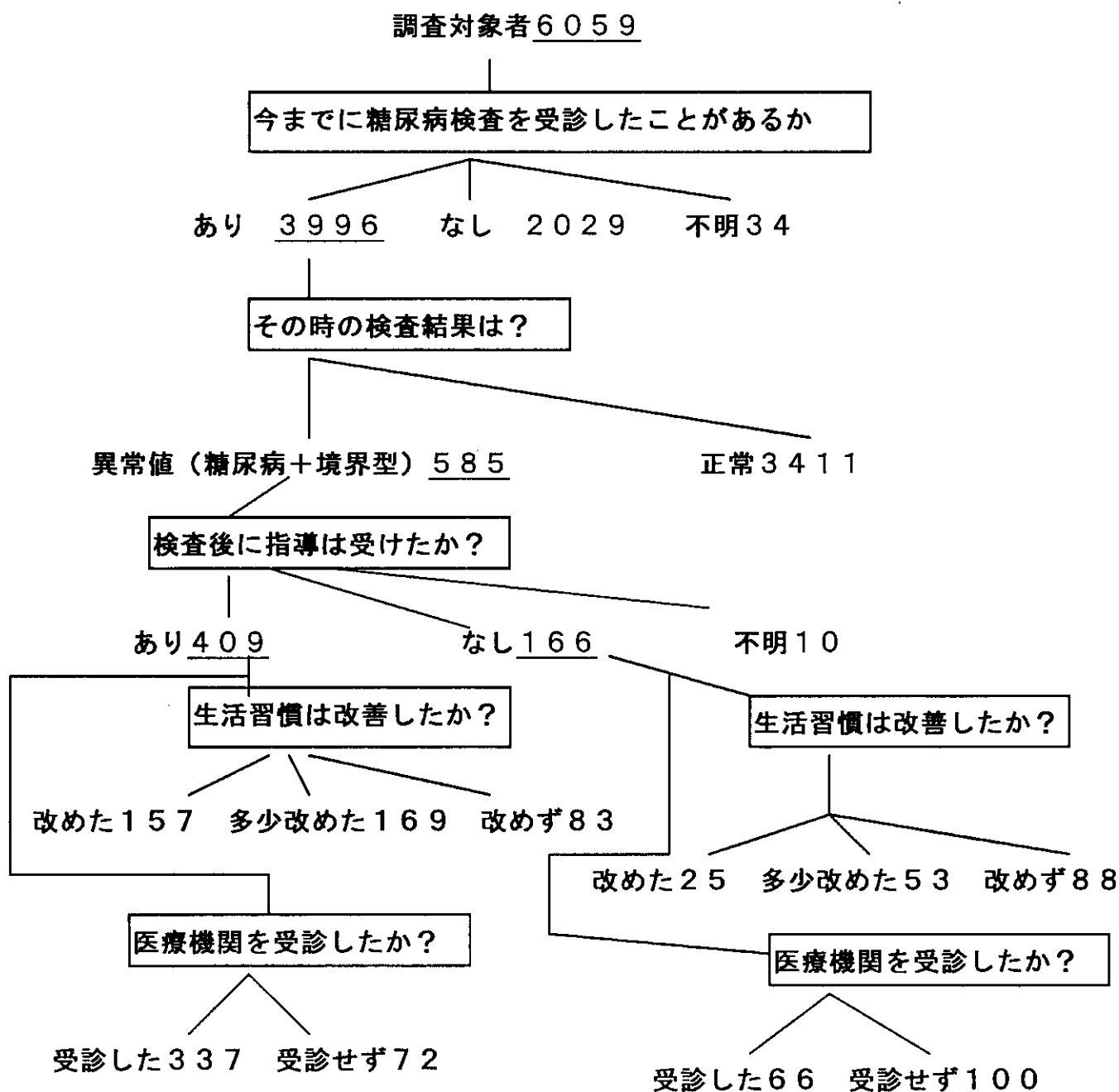
図4. 糖尿病が強く疑われる人の健診および治療の動向



### 3. 糖尿病に関する健診と保健指導の状況

ここでは、調査対象者6,059人に対して行ったアンケート調査の中で、糖尿病健診と保健指導の状況についての質問結果を中心にまとめた。

#### アンケートの内容





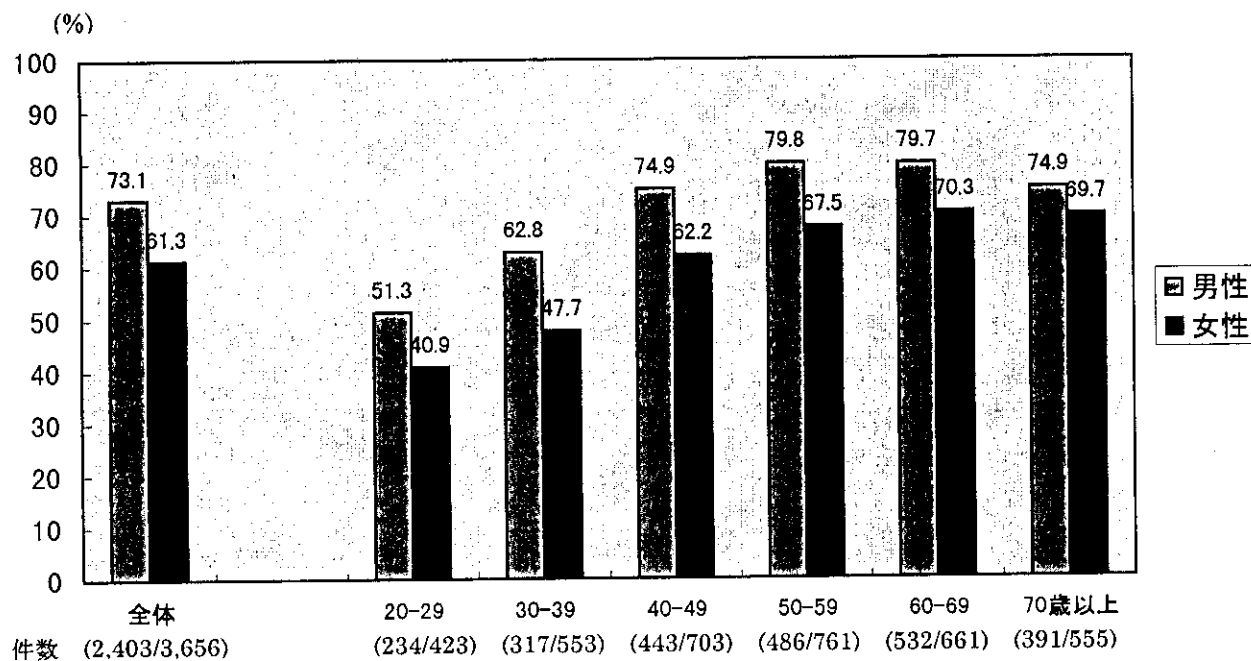
### 3—1. 糖尿病検査受診状況

問2. これまでに健康診断などで糖尿病（尿糖、血糖）の検査を受けたことがありますか？

1. なし
2. あり

アンケートで、「これまでに糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた人の割合は、図5のとおり、男性73.1%、女性61.3%となっている。年齢階級別にみても、全ての年齢層において、男性に比べて、女性の受診割合が低い傾向がみられる。

図5. 糖尿病検査の受診割合（性・年齢階級別）



### 3-2. 糖尿病検査の受診機会

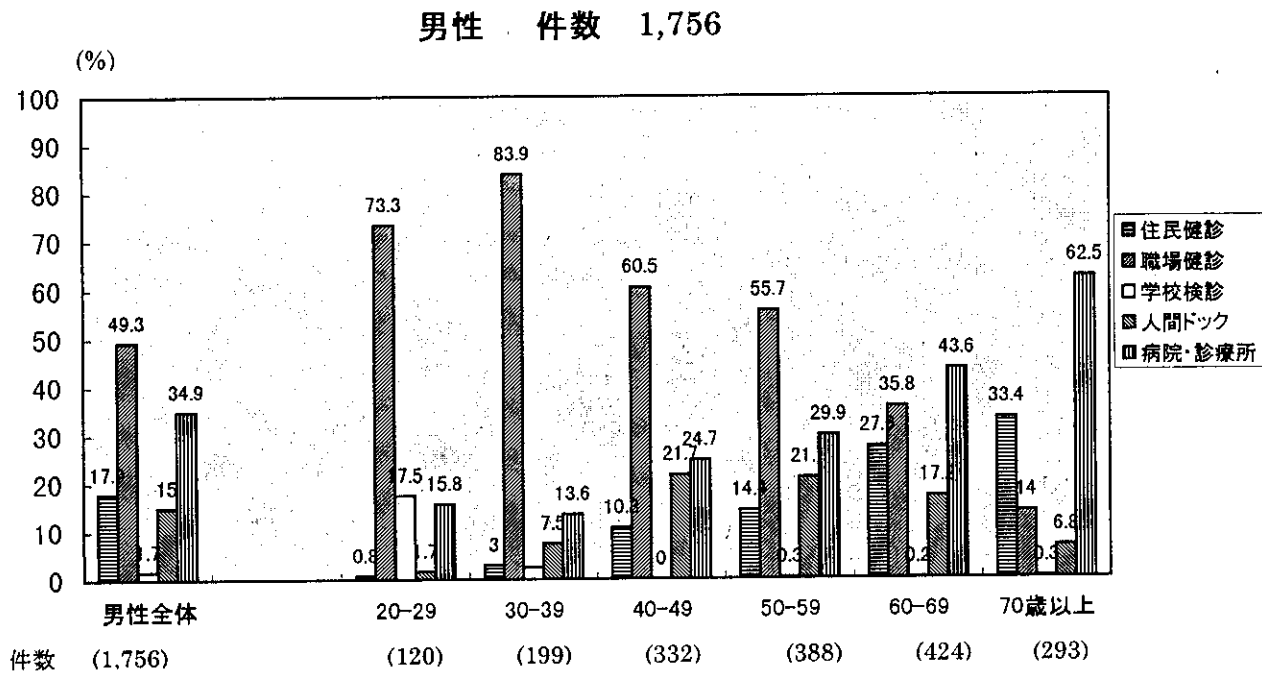
(問2で「あり」の人に対して) どこで検査を受けましたか？

1. 住民健診
2. 職場における健診
3. 学校における健診
4. 人間ドック
5. 病院・診療所

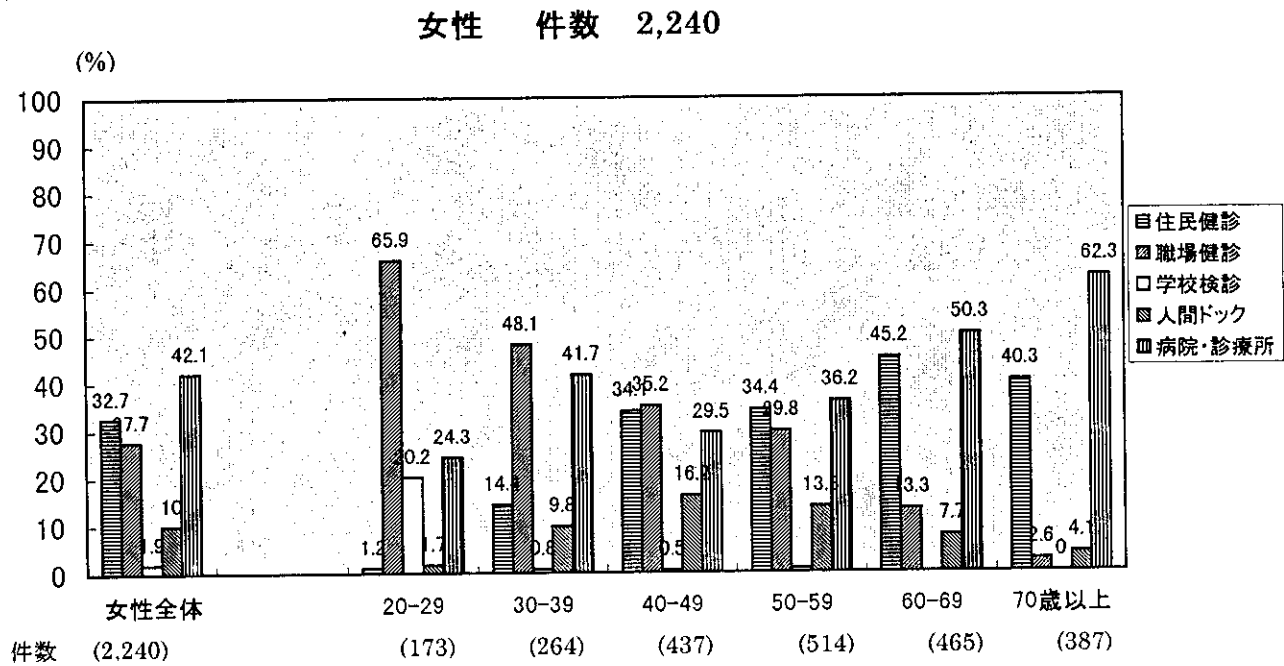
アンケートで、「これまでに糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた人の検査受診機会は、図6のとおり、男性では職場における健診が49.3%と最も多く、女性では病院・診療所が42.1%と最も多くなっている。住民健診と答えた人は、男性17.9%、女性32.7%であった。

また、年齢階級別にみると、若年層では職場健診の割合が高く、年齢が上がるにつれて、住民健診と病院・診療所の割合が高くなる傾向がみられる。

図6. 糖尿病検査の受診機会 (性・年齢階級別)



(複数回答)



(複数回答)

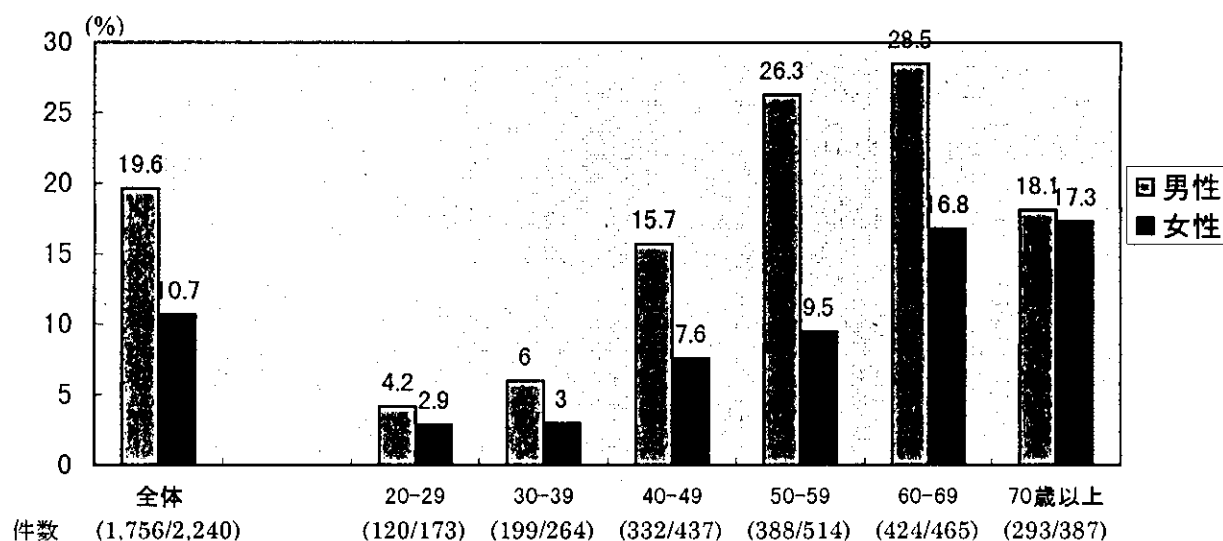
### 3-3. 糖尿病検査受診結果の状況

(問2で「あり」の人に対して) 検査の結果はどうでしたか？

1. 異常なし
2. 「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」などといわれた
3. 「糖尿病である」といわれた

アンケートの間2で、「これまでに糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた人のうち、その時の結果で、異常所見のあった人(「糖尿病である」といわれた人と「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「血糖が高い」などといわれた人の合計)は、60歳代の男性で28.5%、70歳以上の女性で17.3%であった(図7)。

図7. 糖尿病検査における異常所見者の割合(性・年齢階級別)



異常所見者：糖尿病検査で「糖尿病」といわれた人と「境界型」といわれた人の合計

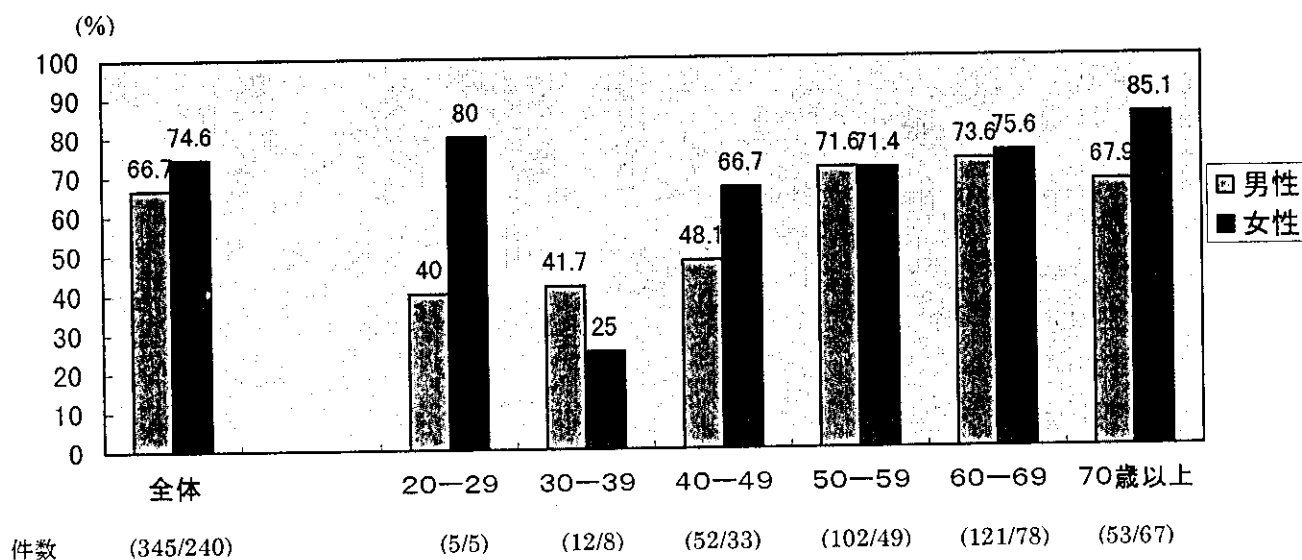
### 3-4. 糖尿病検査受診後の保健指導の状況

(検査結果の質問で2または3と答えた人に対して)該当するものにすべて○をつけてください。

1. 糖尿病教室を受けた
2. 糖尿病のパンフレットをもらった
3. 医療機関を受診するようにいわれた(医療機関受診推奨)
4. 何も受けていない

アンケートの問2で、「これまでに糖尿病の検査を受けたことがある」と答えた人が、その糖尿病検査後に保健指導を受けたかどうかについては、図8のとおり。異常所見のあった人のうち、男性の66.7%、女性の74.6%が、糖尿病検査後に、何らかの指導を受けていた。

図8. 糖尿病検査で異常を指摘された後の保健指導を受けた人の割合(性・年齢階級別)



(注: 20歳代、30歳代については、件数が少ないが、参考のため記載した。)

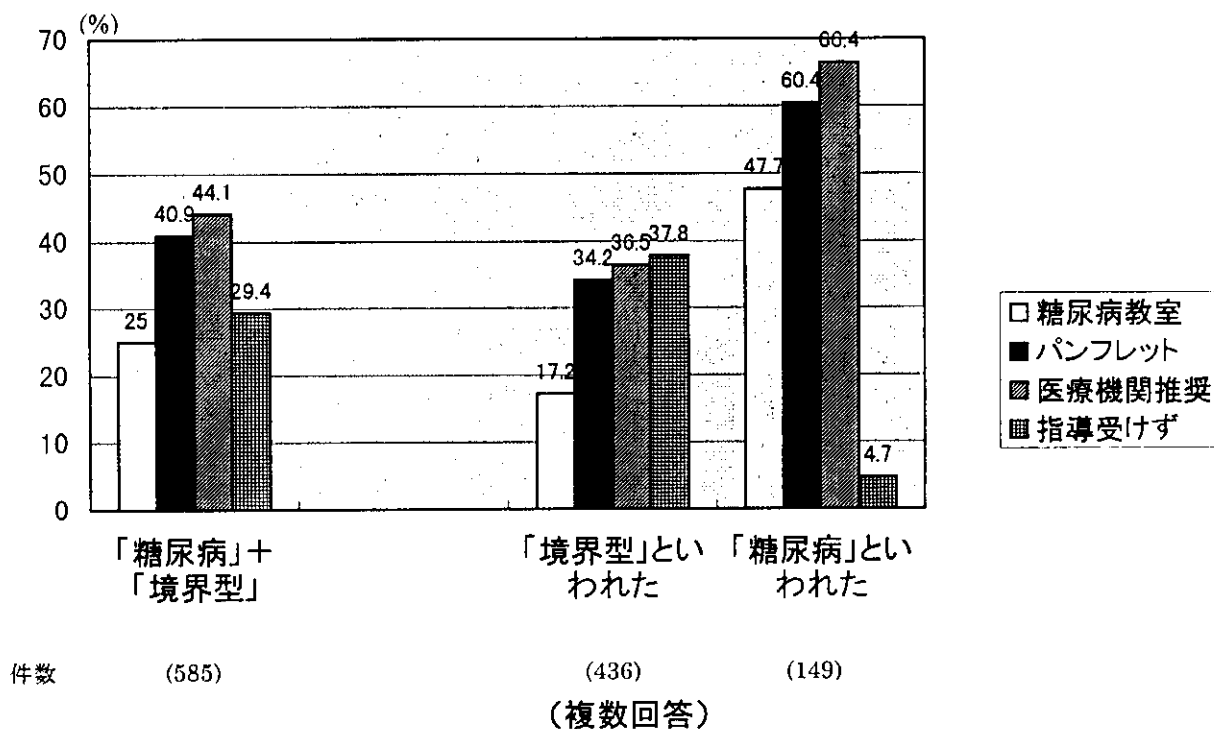
### 3-5. 保健指導の内容

保健指導の内容は、図9のとおりで、「医療機関受診勧奨」「糖尿病パンフレット」が多い傾向がみられる。

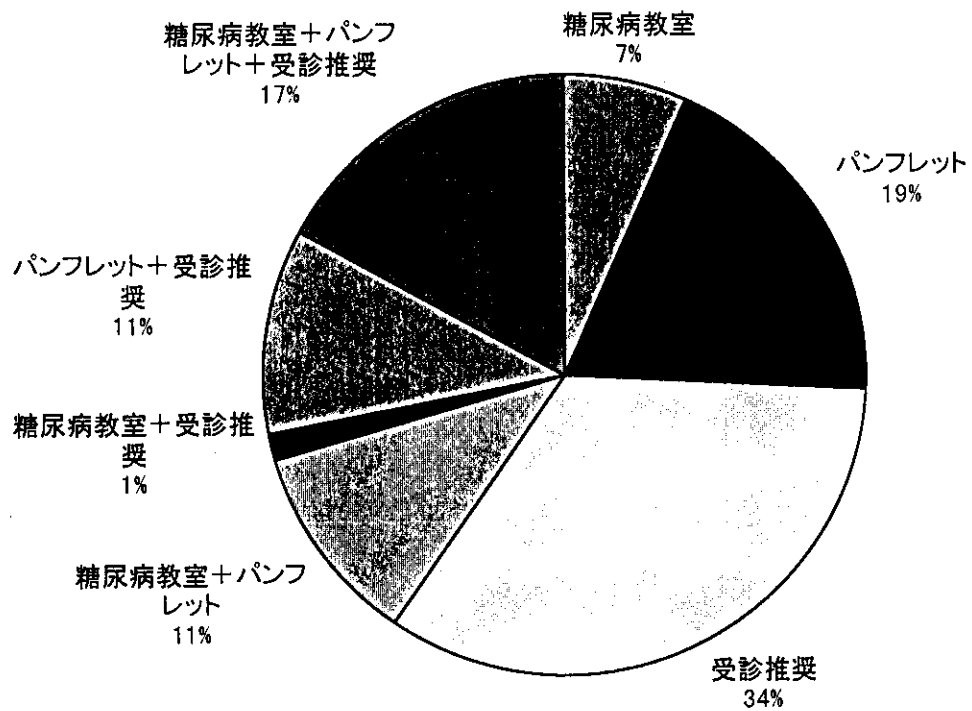
また、詳細な保健指導の内容を見ると、全体の半数以上が、「医療機関受診推奨」単独または「糖尿病パンフレット」単独といった指導内容であった。

図9. 糖尿病検査異常所見者の指導内容（糖尿病検査結果別）

件数 585



糖尿病検査異常所見者の詳細な指導内容  
件数 409



### 3—6. 糖尿病検査受診後の保健指導と生活習慣改善の状況

(検査結果の質問で2または3と答えた人に対して)食事や運動などの生活習慣を改めましたか？

1. いいえ
2. 多少は改めた
3. 改めた

アンケートで、「糖尿病検査で異常所見があった」と答えた人で、その後の生活習慣を「改めた」または「多少改めた」と考えた人は、男性66.4%、女性75.0%となっている。

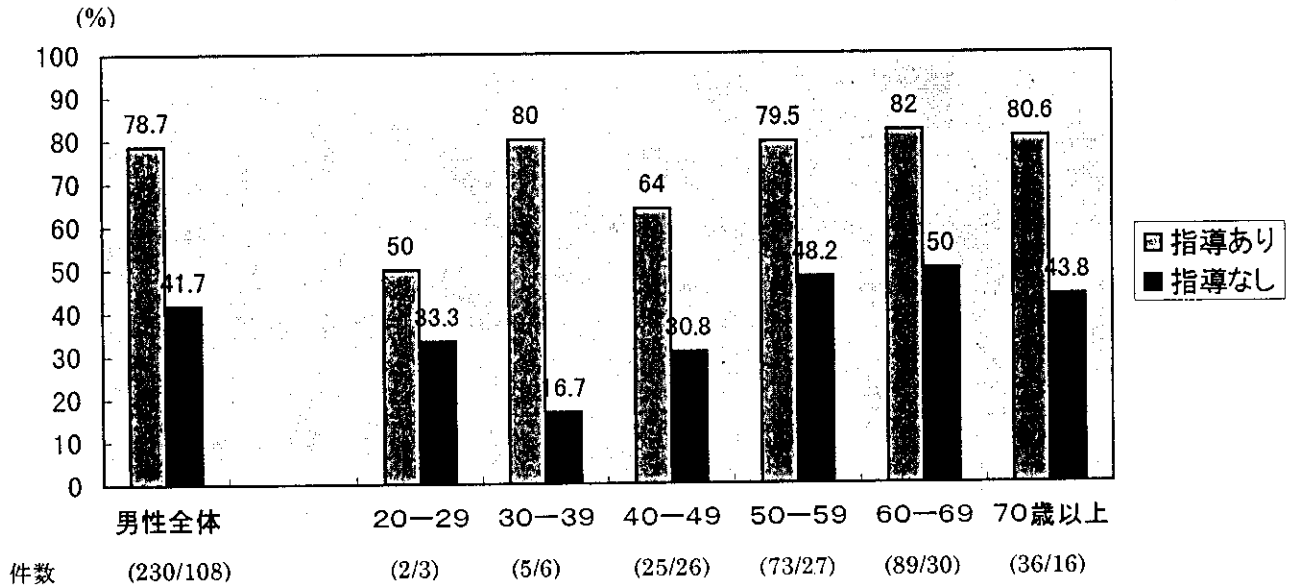
これを、糖尿病検査後の保健指導の有無に分けて示したのが、図10である。全年齢層を通して、指導を受けた人の方が、指導を受けなかった人に比べて、生活習慣を「改めた」または「多少改めた」と回答したが多い傾向がみられる。



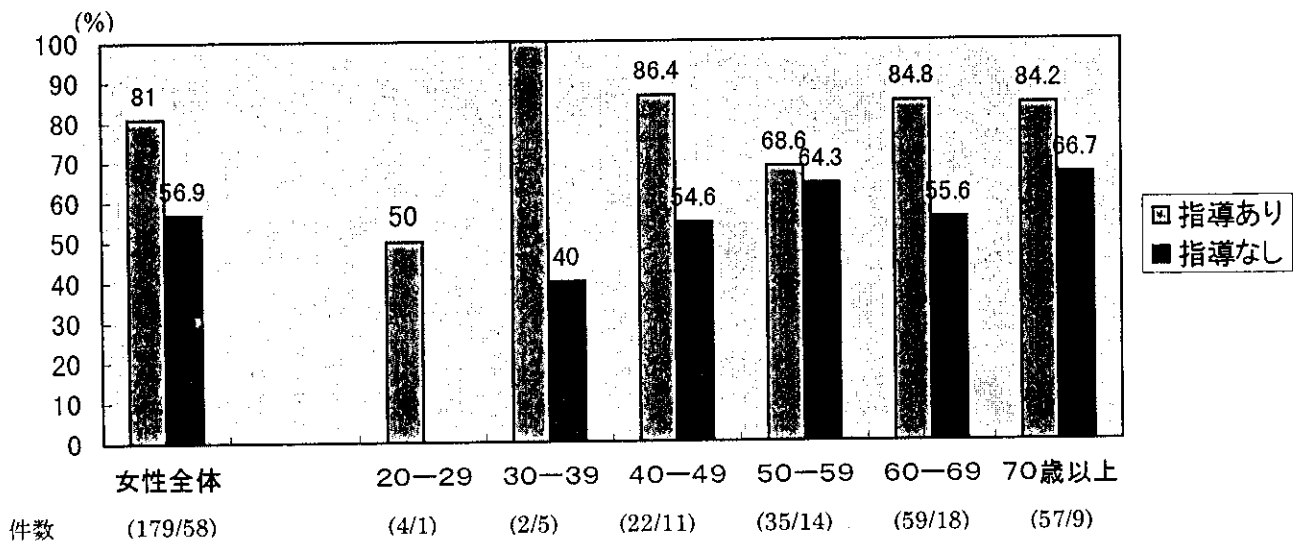
図10. 糖尿病検査異常所見者における保健指導有無と生活習慣の改善がみられた人の割合（性・年齢階級別）

（生活習慣の改善がみられた人：「生活習慣を改めた」または「多少改めた」と回答した人）

男性（男性全体の中で、生活習慣の改善がみられた人の割合は66.4%）



女性（女性全体の中で、生活習慣の改善がみられた人の割合は75.0%）



（注：20歳代、30歳代については、件数が少ないが、参考のため記載した。）

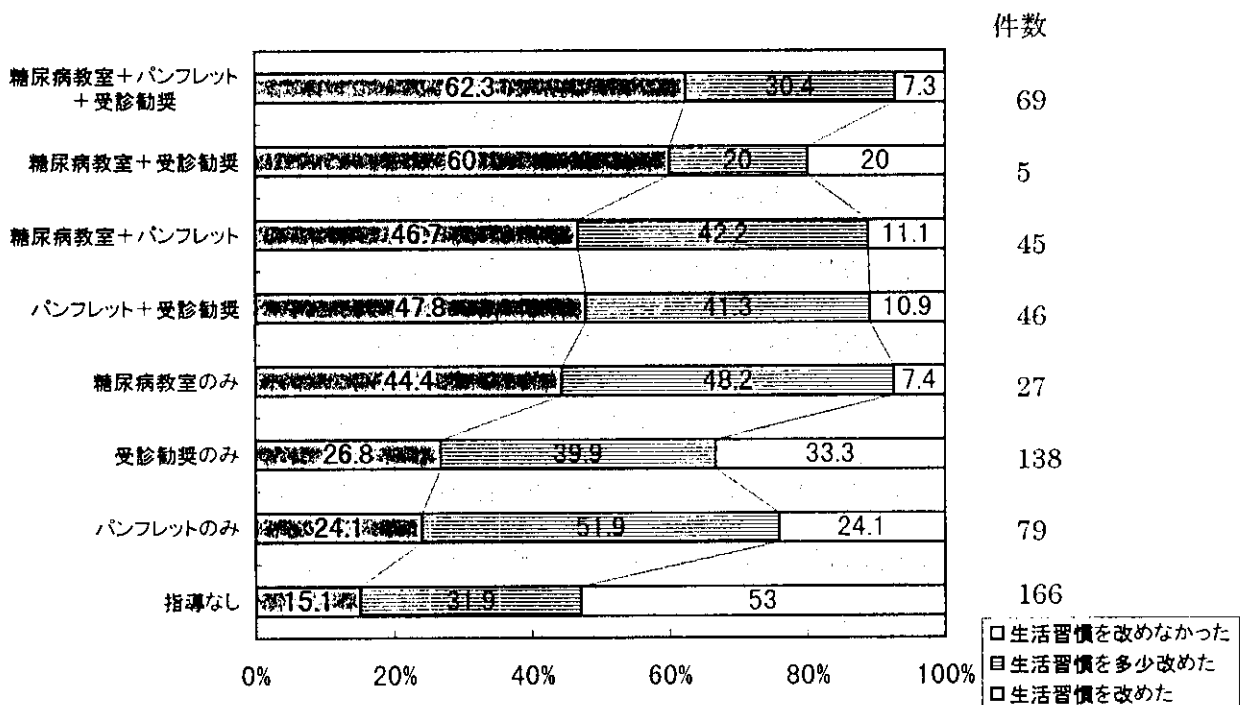
### 3-7. 保健指導の内容と生活習慣改善の状況

ここでは、アンケートの調査内容から、生活習慣の改善において、どのような内容の保健指導が有用か調べた。

保健指導の種類別に分けて、糖尿病検査で異常があった人の生活習慣の改善状況を示したのが図11である。

指導は、各々単独で行うよりも「糖尿病教室」、「パンフレット」、「受診勧奨」を組み合わせて行う方が、生活習慣改善の状況が良い傾向がみられる。

図11. 糖尿病検査後指導の内容と生活習慣の改善状況



### 3—8.糖尿病検査異常所見者の医療機関受診の状況

(検査結果の質問で2または3と答えた人に対して)その後、医療機関を受診しましたか？

1. いいえ
2. はい

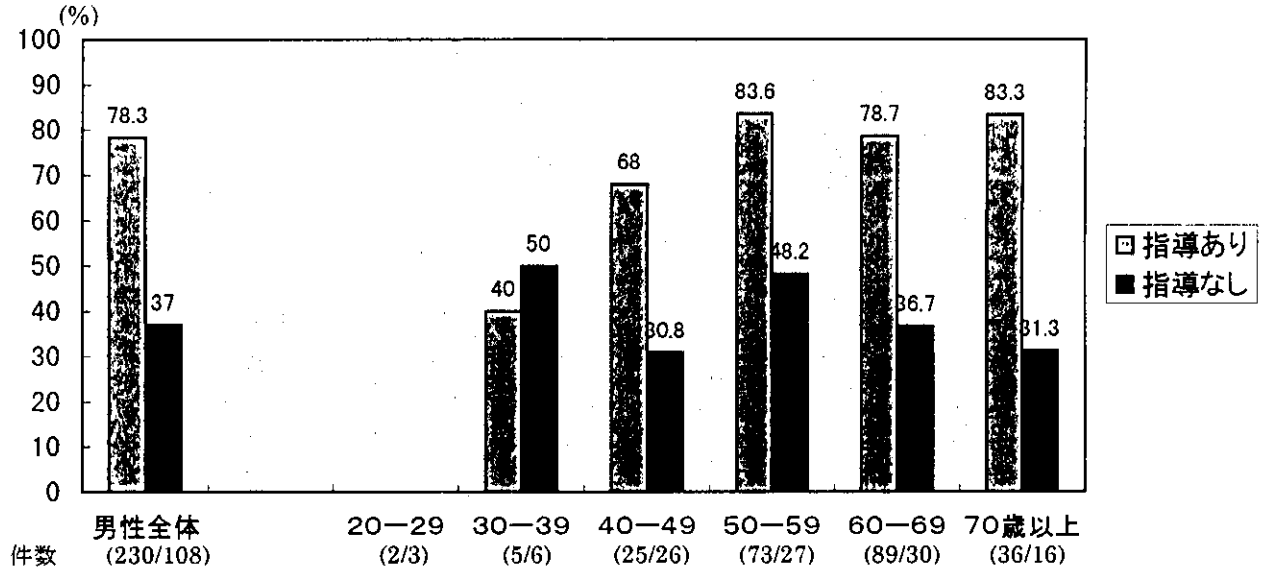
アンケートで、「糖尿病検査で異常所見があった」と答えた人のうち、男性64.3%、女性77.1%が医療機関を受診している。

糖尿病検査で異常所見のあった人の保健指導有無別、医療機関受診状況は、図12のとおり。

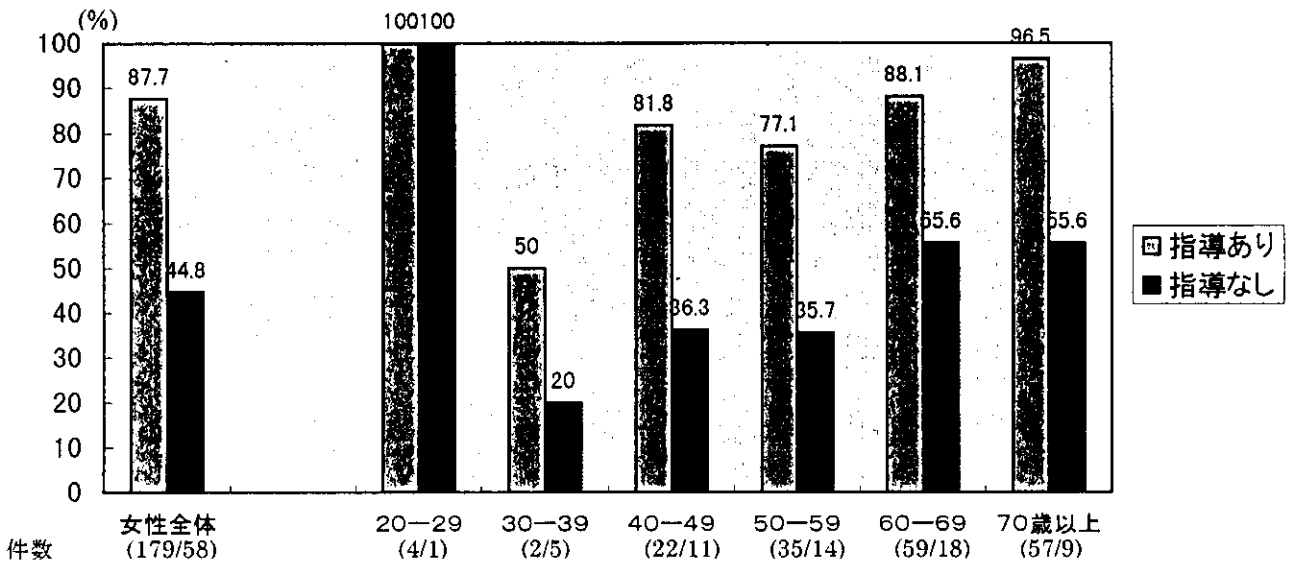
糖尿病健診で異常を指摘された人のうち、保健指導を受けたことがある人は、保健指導を受けたことがない人に比べ、医療機関を受診する割合が高くなっている。

図 1 2. 糖尿病検査異常所見者の医療機関受診の状況（性・年齢階級別）

男性（男性全体での医療機関受診率は 64.3%）

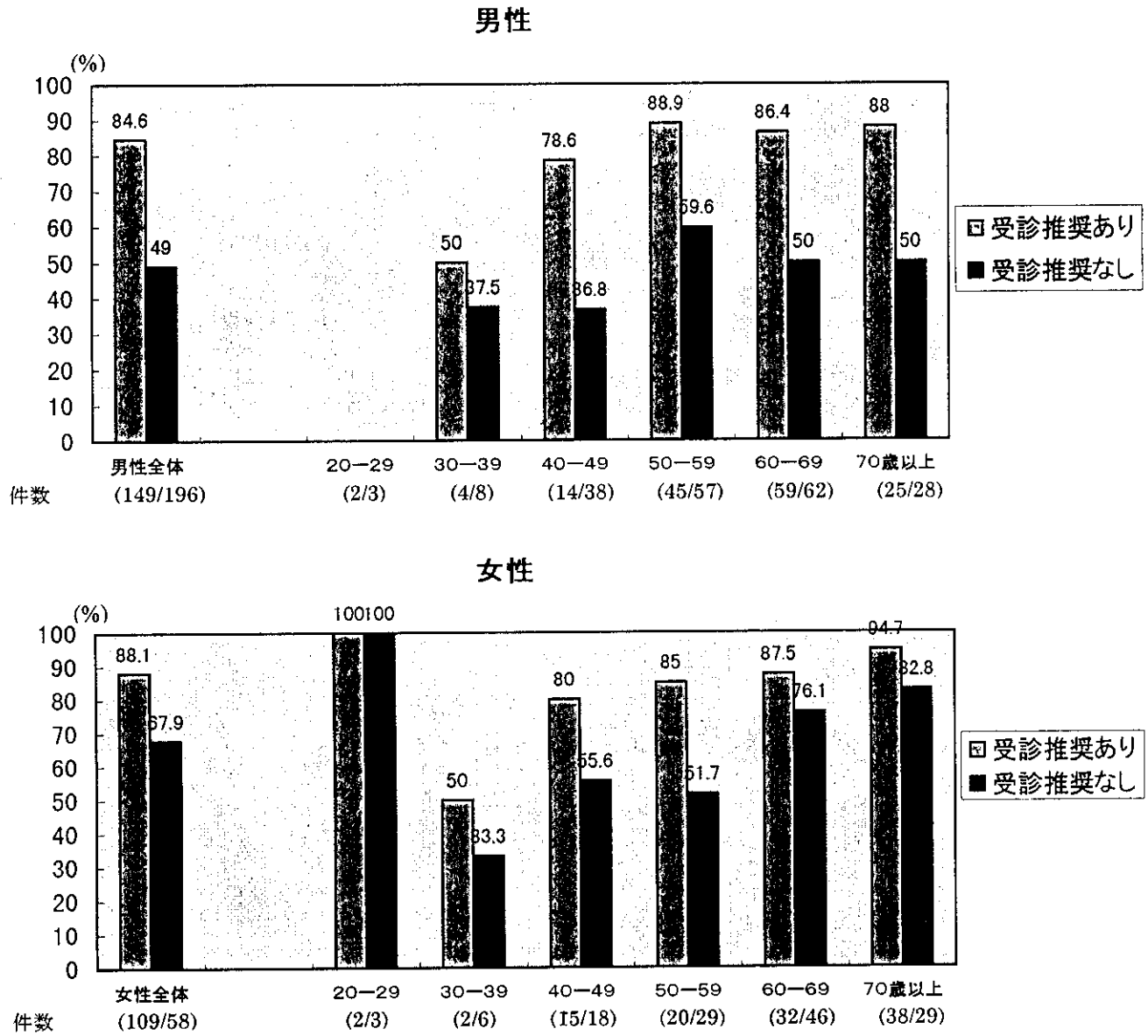


女性（女性全体の医療機関受診率は 77.1%）



(注：20歳代、30歳代については、件数が少ないが、参考のため記載した。)

図13. 受診推奨の有無別医療機関受診者数の割合（性・年齢階級別）



(注：20歳代、30歳代については、件数が少ないが、参考のため記載した。)

### 3-9. 糖尿病健診で異常を指摘されてから、治療を開始するまでの期間

アンケート結果をもとに、「糖尿病検査で異常所見があった」と答えた人が、医療機関を受診して治療を開始するまでの期間を算出し、示したのが、図14。

糖尿病検査異常指摘後1年以内に治療を開始した人は「糖尿病」で83.6%、「境界型」で71.4%であった。逆に、健診において、「糖尿病」と言われた人の5.6%が異常指摘後5年以上経てから治療を開始している。

図14. 糖尿病検査異常指摘後から治療開始までの期間

